



# 持ち家の夢また遠のく?

## 連邦貯蓄銀が基準変更

### 中古物件への融資50%に

連邦貯蓄銀行(Caixa)が27日、5月4日以降の中古家屋購入者への融資を購入価格の50%までとする事を決めたと27日付アジェンシア・ブラジルや28日付付伯字各紙が報じた。これにより、中古家屋購入予定者は購入価格の半分を頭金として納めるか、民間銀行の融資を利用する必要がある。

### 民間銀行もいざれ同調か

連邦貯蓄銀行は住宅購入者への融資の7割を担っており、1月19日の不動産購入用融資の返済利率は、民間銀行の融資を上回っていた。民間銀行もいざれ同調か、融資上限引き下げの理由、住宅用の融資の元金となる貯蓄預金(ポウバンサ)が減った事だ。



立ち並ぶ聖市のアパート群(Kelsen Fernandes/Fotos Publicas)

融資上限引き下げの理由、住宅用の融資の元金となる貯蓄預金(ポウバンサ)が減った事だ。ポウバンサは今年既に230億レアルの超過で、住宅購入用の融資の枠が縮小された上、住宅金融システム(SFH)による融資上限は80%が50%、不動産金融システム(SFPI)による融資上限は70%が40%に引き下げられる。SFHは市場より低金利かつ最大30年の長期返済で最大45万レアルを融資するシステムで、返済には動産期間保障基金(FGTS)も利用できる。SFHで50万レアルの家を購入する時の頭金は、現行基準では10万レアルで足りるが、新基準では25万レアルが必要となる。SFPIの方は家屋や土地の価格、融資額にも上限がないが、FGTSの使用は認められない。SFPIで80万レアルの家を購入する場合、現在の頭金は24万レアルでよいが、5月以降は48万レアルが必要となる。不動産関係の融資の返済利率の平均年利は、公的銀行が6.03%、民間銀行が7.15%、民間銀行は7.68%、9.77%だ。頭金を用意できない場合は高金利覚悟で民間銀行に頼る必要がある。ただし、ポウバンサの預金額低下は、経済基本金利(Selic)を引き上げて投資ファンドに振り代えるケースよりも、負債解消やインフレ高騰による購買力低下を補うための預金引き出しの影響が大きく、民間銀行でも今年中に融資枠縮小や

## バイア州都を豪雨が襲う

### 土砂崩れで多数の死者発生

#### 大統領が哀悼と救援約束

27日未明にバイア州サルバドール市を襲った豪雨と、それに伴う土砂崩れは28日午後2時までに少なくとも10代の子ども3人を含む14人(27日夜までの数字は27日午後11時、エスタード紙14人、G1サイトは12人で28日に2人の遺体回収と報道の死者を出し、病院

2カ所で浸水が起き、市内の主要道路は冠水したと28日付付伯字紙やサイトが報じている。国立気象観測所(Inmet)によると、集中豪雨は雨雲を伴う寒冷前線がバイア州上空に留まったこと発生した。市内では10時間の間に4月の月間平均降水量309.7ミリの3分の2

に上る200ミリ近い雨を記録した所もあり、次の就寝中の家々を襲い、死者を出した土砂崩れは、1996年にも土砂崩れで13人の死者が出たバロチーニョ地区の2カ所で起きた。同市では27日午後4時までに103カ所で土砂崩れが起きていた。大雨は二つの病院にも部分的な浸水被害をもたらした。サントアントニオ病院では3棟の病棟が浸水し、130人の患者の移送を強いられた。私立のアジエール・パイバ病院では雨による設備不良のために、緊急外来の診療が中止された。28日にはポア・ヴィ



記者会見で被害状況と救助活動の進捗を説明するACMネット・サルバドール市長(左)(Angelo Pontes/Agcom)

スタ地区で5階建てのアパートが倒壊したが、最後まで残っていた住民も直前に退避したため、死者は出なかった。死者は同市のアントニオ・カルロス・マガリャンエス・ネット市長(民主党・DEM)は27日、被災者に3最低賃金までの支援を行うための緊急援助法案を28日に市議会に提出すると述べた。27日夜、ジウマ大統領はルイ・コスタ・バイア州知事(労働者党・PT)と、ネット市長との電話会議後、陸軍を被災者

したとのテレビニュースも流れた。現地を離れる人も現地に残る人もその時点では伯国人の死者が出たとの情報はなく、国内にいる家族や友人は胸をなでおろしている。22日に起きたチリのカウポ火山の噴火で吹き上げられた噴煙はこの週末に聖州南部にも届く可能性がある。連邦貯蓄銀行は、今回の基準変更は中古家屋購入者の融資限度から新築家屋の購入には影響しないというが、現在住んでいる家を売って新築家屋を購入する予定だと、現在の家が売れないから新しい家が買えないという問題も起こりうる。今回の措置は住宅購入予定者のみならず、住宅販売業者や建築業者にも頭痛の種となりそうだ。

## 3月の失業率6.2%に

### メルセデスの解雇は回避

地理統計院(IBGE)が28日、3月の失業率は2012年3月と同じ6.2%で、2011年の6.4%に次ぐ高いものとなったと発表したが同日付G1サイトなどによると、2月の失業率は5.9%で、11年2月より高かったが、3月の雇用状況は更に悪化した。IBGEのマリア・ルシア・ヴィエイラ主任は「例年は1月の失業率の上がる時期。年頭の動向がその年の動きを占うという意味では、第一四半期の数字は特に大切だ」と説明した。失業中の人は150万人おり、昨年同期と比べ23.1%増えた。雇用総数は2280万人で、正規雇用者は1150万人と見られている。雇用総数は就労年齢の人の52.1%に相当する。3月の平均給与は2134.60レアルで、前月比で3%の減額となった。インフレ率進捗の中で、インフレ率進捗の中で、購買力低下に拍車をかけている事も明らかにしている。メルセデス・ベンツ社は、27日朝の労使交渉の結果、500人の雇用契約停止を意味する雇約解除を撤回し、一時的な雇約停止を意味する雇約解除を6月15日まで延長し、5月15日まで自主退職者の募集を行うとの提案で、22日に開始した無期限ストも中止された。中央労組事務局のセルジオ・ノブレ氏は、「自主退職者募集の結果を6月18日の労使会談で確認する。思い通りの結果が出なければ、再びスト状態に入る」と意向を表明した。

救済の増援に差し向ける事を表明し、「27日に大雨と土砂崩れがバイア州都サルバドール市を襲い、多くの人命を奪い、傷者や家を失った人が出たことに深い悲しみを覚える」と語った。同大統領は、ジルベル・オッチ国家統合相を28日に同市に派遣して上空視察をさせた後に具体的な対応策を練る意向である事も表明した。

【既報関連】インドネシアで麻薬密売容疑で逮捕された伯人のロドリゴ・グラルテ被告の銃殺刑が、伯国時間28日午後10時に執行された。同日付伯字サイトが報じた。同被告は04年に6キロの coca インを持ち込むとして逮捕され、翌年

## 麻薬取引現場で6人射殺

モジ短時間に4カ所で連続発生。26日夜から27日未明、大聖市圏のモジ・ダス・クルーズ市内4カ所で銃撃事件が連続発生した。6人の死者と3人の負傷者が出たと28日付アゴラ紙が報じた。四つの事件は、26日午後11時40分から27日午前1時半の1時間50分の間に起こり、発生現場も半径9キロ以内に集中している。被害者は皆、胸部と頭部に3発以上の弾を受け、モジ市警は犯人が明確な殺意を持っていたと見て、四つの事件の関連性を調べている。「被害者は全員薬物中毒患者で、現場は全て麻薬密売が行われる場所の近くだった」と市警殺人課のエドゥアルド・ポイグス警部は語った。事件は麻薬密売組織による「なわばり」を巡る争いが原因である疑いも出ている。昨年11月以來、同市では既に15人が「なわばり」争いで死亡している。今回の犯行では少なくとも3台の乗用車が狙撃されていることから、銃撃犯は複数いて、それぞれ別の麻薬密売組織に属していると思われる。最初の2件では銃弾は灰色の車に乗った人物から放たれたが、残りの2件では犯人は防弾ガラスの黒いコルサ車から銃撃した。鑑定でも、犯行には2種類の銃が使われたことが判明している。警察によつて身元が判明した5人の死者は薬物中毒ではあったが、遺族達は麻薬取引には関わっていないと証言している。

2人目の伯人死刑執行 インドネシアで麻薬密売 死刑判決を受けた。同被告は今年1月に同国で麻薬密売容疑で死刑に処されたモレイラ被告に続き、国外で処刑された2番目の伯人となった。同被告の親族は昨年、精神分裂症(統合失調症)との診断書を提出したが、今年3月に同国検察の要請で行われた再鑑定の結果は未公表だ。モレイラ被告処刑後、ジウマ大統領が「大変遺憾で憤りを覚える」と表明するなど、両国関係は緊張を高めている。現在、在ジャカルタ伯国大使館はレオナルド・モントレイロ通商担当が臨時で指揮しており、伯国大使館はレオナルド・モントレイロ通商担当が臨時で指揮している。イグナシオ・マテウは麻薬密売への量刑を強化しており、13年に5年ぶりに死刑を復活させていた。

25、26日にネパールで起きた地震の後、国内にいる事が確認された伯国人の数が、28日午後1時現在までに183人に増えた。27日に現地を離れた伯国人もおり、28日未明に空港に降り立ち、家族が歓迎する。SFPIの方は家屋や土地の価格、融資額にも上限がないが、FGTSの使用は認められない。SFPIで80万レアルの家を購入する場合、現在の頭金は24万レアルでよいが、5月以降は48万レアルが必要となる。不動産関係の融資の返済利率の平均年利は、公的銀行が6.03%、民間銀行が7.15%、民間銀行は7.68%、9.77%だ。頭金を用意できない場合は高金利覚悟で民間銀行に頼る必要がある。ただし、ポウバンサの預金額低下は、経済基本金利(Selic)を引き上げて投資ファンドに振り代えるケースよりも、負債解消やインフレ高騰による購買力低下を補うための預金引き出しの影響が大きく、民間銀行でも今年中に融資枠縮小や

### ルウェーフィヨルドとアイスランドオーロラ見学ツアー

- 9月19日=ノルウェーへ出発!
- 9月21日=ベルゲン旧市街地などの観光。
- 9月22日=有名な鉄道で「ヴォス」へ。その後船でソグネフィヨルド。
- 9月23日=ブリクスタール氷河。ガイランゲル氷河は船で観光。
- 9月24日=モルテからアンダルスネスまでの氷河を観光。トロールの舌、ロムズタル渓谷
- 9月25日=オスロ市内観光。
- 9月26日=アイスランドへ向け出発!
- 9月27日=午前中はレイキャビック市内観光。夜はオーロラ見学へ出発。
- 9月28日=シングヴェトリル国立公園。ゲイシールで間欠泉をご覧下さい。そしてグトルフォスの滝など。
- 9月29日=ブルーラグーン「青い湖」へ。美しい青色の温泉です。
- 10月2日=サンパウロ着

### 豪華客船で行くカリブ海クルージングとマイアミでお買い物ツアー

- 11月11日=サンパウロ出発フロリダへ。
- 11月13日=ブッシュガートン
- 11月14日から豪華客船でのクルージング
- タンパ=フロリダ
- ロアタン島=ホンジュラス
- ベリーズシティ=ベリーズ
- コスメル島=メキシコ
- コスタ・マヤ=メキシコ
- タンパ=フロリダ
- その後マイアミでクリスマスのプレゼントを買いましょう!



ニッケイ俳壇

(836)

星野 瞳 選

白き月見上げ大うねり甘蔗畑
マラジョウでニガラとカシノボ踊りもし
白蘭の生命の限り匂ふなり
こぼれ種子まで生え蕎麦の花盛り
寄りそいで鶏頭二本枯れて行く
○正岡子規の写生俳句にたてこもった作者
は御齢白寿に達しられた。益々元氣だ。
北海道・旭川市 両瀬 辰江

春の色甚に満ちる昨日今日
戦無き世を長らえて離断る
掲示板見ている人も春の服
早春の雲流れゆく空広し
デパートの値札半額冬終る
○いつもいつも忘れず俳句を送つて下さり
本当にありがたうございます。御地にも春
が来たようですね。こちらは何も彼も荒れ
た秋にならんとしています。あなた様の居
られたサンパウロではなくになりました。吾
れわれ日本人は、でも安らかに生きていま
す。
ポツポツ 青木 駿浪

秋野原を染めて暮れゆけり
夢にまで俳句を作りホウの秋
虫浄土山家の闇のなつかしき
木漏れ月揺れる歩道に涼新た
○古い木陰誌にこの作者の名を見つけてこ
年順ならぬ年下の兄弟を失い残るも神のはから
庭の桜咲けば一族集まりて花見するごときよき便り
あり
大鉢に移植せし小菊蕾持つ光る無数の玉並(な
む)とく
雨もよけれ澄みわたたりたる空の下洗濯物の乾く幸
せ
南瓜の実、入りのよき種取り分けて煮てかみしめ
ぬ戦後しのびて
『評』まことに神のはからいと思ふ。筆者も
四、五年前つづけて二人の弟をしくした。悲
しをおさえ辛をとおく四首を晩歌としてささ
げている。相部氏の、心が伝わる思いで読ん
だ。そして又かみしめながら戦後をしのぶこ
とであった。
サンジョセトスピニヤス 梶田 きよ

ニッケイ歌壇

(487)

上妻博彦 選

それぞれに個性目を引く大達の主(あるじ)と共
に朝のウォーキング
一心に女主人の後を従く桃色リボンの仔犬いじら
し
老齢の飼いが押す手車に羨よき幼のご乗る仔
犬
朝な夕な園の小鳥に餌を運ぶ男黙然にせつせと通
う
半切りのマモンが並ぶ台の上多くの小鳥はや来て
啄む
『評』その内に犬が、主になる時代が来はせ
ぬかと思ふことがあるが、こちらが疲れきみ
なのかも。こんな時静かな山の空気を吸い乍
ら、身にしみる本をくり返し読みたいものだ
と思ふ。
この度、この欄の同好・武地志津さんの
歌文集が出版された。くわしくは、梅崎嘉明
氏の『ぶらっさ』欄(4月1日)を参考に
されたい。筆者も一本頂いている。
サンパウロ 相部 聖花

んな古い俳人だったのかと改めて敬意を感
じた。念腹が云って居た息の長い俳人の一
人だ。永生きして下さい。
サンジョセトスピニヤス 大月 春水

秋めくやアラレズ一際冴えて咲く
この秋に会ったばかりに計の知らせ
物貰い帽子さし出す日盛りに
マネキンの着替えに早き冬着かな
ジョインワイレ 簡井あつし

露けしや訃報の増えし里便り
露の身と云えど儂く友逝きぬ
まだ残る日本の食器トロ口汁
カルナバル過ぎて知りたる孫の恋
人住まずなりて久しや虫すたく
ソノカバ 住谷ひさお

満月や雲寄り付きて離れざる
日の出を待ち夜顔を見に行かん
日出て夜顔の白微笑みぬ
夜顔の朝開くこと偶にあり
サンパウロ 寺田 雪恵

二人だけ入れる温泉露天風呂
雑念を雲にたくして背泳ぐ
するすると皮むきやすき柿の秋
干柿をつるせば軒の秋そよぐ
サンパウロ 松井 三州

秋に入りようやく雨がやつて来た
新涼がよき雨つれて来てくれし
秋に入り知人等先きに逝きにけり
秋来れどカラオケあればまだ逝けぬ
ブルー州トラスター 三宅 昭子

熱帯の恵み集めてランブータン
大木に綿を被せて花インガー
アマゾンの森を静めて花インガー
ランブータンこの美味友に届けたし
筍や我が背も老いて真直ぐに
マナウス 岩本 和子

朝日早煌煌として雨季上る
雨季明けは街は日様の思ふまま
日本の山車運び来てカルナバル
がぶがぶの制服嬢し入学式
マナウス 山口 くに

秋来たる真澄の空に雲も無く風は香りにさわやか
に吹く
秋風に吹き落とされし病葉(わらくば)はいとし
なやかに舞いながら落つ
夕飯の飯の香りに思ひ出す自ら穫りし新米の香を
老婆の丹精実り白菊の匂いさやかな秋の庭かな
睦み合う番いの小鳩愛しげに頬すり寄せて何を語
るや
マナウス 岩本 和子

『評』いくらか天候も落ち着きよよい心地
良い日が続いている。日本人の感性になじ
む、熟語抜きで柔らかい作品。二首目三句
『病葉』は忘れず『わらくば』と読んでほし
い。
パウルー 酒井 祥造

ユーカリの伸び良けれど雨続く晩夏の雨も
も伸びたり
ユーカリの畝間に草の伸びるき雨多き年の夏も
すずしく
除草剤かけゆく噴霧機背に重し半量なれども足の
秋暮る三十五度なる日の続く夜も三十度密明け放
つ
折々に小雨は降れどしめりなくきびしき乾季に早
くも入る
『評』この作品には、いつも安心と力を頂
く。ブラジルに移り住んだ目的でもあったの
だが、ついにはたせなかつた。それでも安心
感を頂くのだ。
サンパウロ 坂上美代栄

幼な子の花を数える大花野
木の実熟る右左往の歌道
鳥獣の大山車踊るカルナバル
濯女に大河越しゆくピリキッ
マナウス 宿利 嵐舟

雨季明けの空流れ行く雲一つ
暮れるまで花野さまよひ一番星見る
将兵踏みし木の実や古戦場
カルナバル踊り疲れて朝の月
マナウス 河原 タカ

図書室に新刊香る雨季上る
目の前で踊る娘よカルナバル
人と山車汗にまみれるカルナバル
ゴミ捨て場セルカに舞子鳥群れて
マナウス 松田 承吉

秋空に幻想的な雲流れ
一群の賑やかな空鷹鷓来る
カルナバル踊り上手な美女神
牛馬の種畜育成馬肥ゆる
マナウス 服部タネ女

朝な夕涼しくなりて雨季上る
そよ風に花野に遊ぶ蝶の群れ
夕まくれガヤガヤ飛び行くベリキッ
カルナバル騒ごうしくも心浮く
マナウス 山口 くに

葎草園花野となりて風匂ふ
ふるりの姉に花野に摘む一輪
カミニヤダージュにはさまる木の実かな
くるくると舞い散る木の実で遊ぶ子等
マナウス 岩本 和子

朝日早煌煌として雨季上る
雨季明けは街は日様の思ふまま
日本の山車運び来てカルナバル
がぶがぶの制服嬢し入学式
マナウス 山口 くに

秋来たる真澄の空に雲も無く風は香りにさわやか
に吹く
秋風に吹き落とされし病葉(わらくば)はいとし
なやかに舞いながら落つ
夕飯の飯の香りに思ひ出す自ら穫りし新米の香を
老婆の丹精実り白菊の匂いさやかな秋の庭かな
睦み合う番いの小鳩愛しげに頬すり寄せて何を語
るや
マナウス 岩本 和子

『評』いくらか天候も落ち着きよよい心地
良い日が続いている。日本人の感性になじ
む、熟語抜きで柔らかい作品。二首目三句
『病葉』は忘れず『わらくば』と読んでほし
い。
パウルー 酒井 祥造

ユーカリの伸び良けれど雨続く晩夏の雨も
も伸びたり
ユーカリの畝間に草の伸びるき雨多き年の夏も
すずしく
除草剤かけゆく噴霧機背に重し半量なれども足の
秋暮る三十五度なる日の続く夜も三十度密明け放
つ
折々に小雨は降れどしめりなくきびしき乾季に早
くも入る
『評』この作品には、いつも安心と力を頂
く。ブラジルに移り住んだ目的でもあったの
だが、ついにはたせなかつた。それでも安心
感を頂くのだ。
サンパウロ 坂上美代栄

河曲る風の岬は大花野
蓮沼へ続く一本道花野中
草花狭庭も虫に花野めく
カルナバル孔雀の化身として一夜
マナウス 丸岡すみ子

雨季明けの空の青さに深呼吸
集団で騒ぎて翔びてベリキッ
火を放つしけの衣裳カルナバル
日の入り前椰子から椰子へベリキッ
マナウス 渋谷 雅

雨季明けの空気うましと空仰ぐ
雨季明けは心も弾み身も弾む
雲の上に群れ飛ぶイレゴアマゾン
今日明日を忘れて騒ぐカルナバル
マナウス 吉野 君子

空の青日に増して雨季上る
キャンパスに描いてみたし花野道
一陣の風走り抜けた木の実落つ
唯一度父との思ひ出木の実拾ひ
トカチニス 戸口 久子

雨季上る濁流の大河満水に
不景気に何処吹く風よカルナバル
秋草の色とりどりに咲き乱れ
夕焼にアマゾン大河風渡る
サンパウロ 小斉 棹子

子に告げぬかすかな傷み秋小寒
急ぐことなかり久し秋家路
次々に降りてひびく秋の駅
想念の靴音ひとつ林檎むく
サンパウロ 武田 知子

来し方の有為転変や天の川
愁ひごと捨てきれぬまま秋立ちぬ
云ひたきを心に置み古酒を酌み
サンパウロ 吉崎 貞子

民衆を丘に集めて受難劇キリストの血潮今年も覚
を思ふ
十二時間白河夜船に戸も閉めず五疋(キロ)瘦せ
ても疲れ見えずと
紙の上にて知るのみなれと懇ろな歌集戴く人を通じ
て
過ぎ来しを涼しく綴り歌を詠み装幀の虹中味かた
りて
『評』二、三首目に苦慮した。『籽』を
『証』に、『扮れ』を『疲れ』と書き整えて
見た参考まで。一、三、四首に気持が現れて
いる。
グアルリョス 長井エミ子

『評』復活祭の映像、裏方の仕事も大変な様
だ。よく捉えていて、説明だけで終らぬ様
に。五首に叙景と叙情がある。
グアルリョス 長井エミ子

溪流を庭に引き込む山家ありジツビで越えし岩山
の麓
一本のミカン黄金に熟れ来れば小鳥のそつと穴あ
けに来る
柿の皮ぐるりん剥いてナイフ置く小ぢやかな庭も何
となく秋
秋暮るるきのうもきょうも又あしたご飯支度の私
何物
太陽の滴落ちたる北伯の海ゆらゆらと肌焼く夕べ
『評』歌の感覚の鋭さに引き込まれるが、抽
象に過ぎると危うく感じられる。書きなれた
作家が方角の転換を試みている様に見える。
サンパウロ 武田 知子

戦中渡辺はま子は愛国の熱血の歌手其の名を遺
戦地にて「モンテンルパの夜は更けて」唄いては
ま子は兵士慰意む
「支那の夜」渡辺はま子のヒット曲甘き美声は
人々を魅す
パウルー 小坂 正光

天高し届かぬコードレス電話
訪日の孫に持たせし染卵
サンパウロ 児玉 和代

ダイヤ婚夫の寡黙も爽やかに
市販慣れの舌に郷愁新豆腐
肩肘の力抜かねば秋の風
新涼やとくどくど流る五体の血
風もなき空のどこかに秋立ちぬ
ひさかたの大地目覚す秋の空
足に残る霜焼けのあと震災忌
我武者羅に生きて喜寿受く流れ星
物価高く干鱈も細切り聖週間
サンパウロ 西谷 律子

残された杖に目のいく人の秋
残されし者の追憶鱈魚
入院は本日の話万愚節
やさしさのあぶる笑顔さわやかな
サンパウロ 西山ひろ子

心無く聞きし病名秋思かな
突破せし医大に通ぶ孫爽やか
今朝の秋反りて届みて鍛え居り
三杯酢甘味噌和えとキヤボ愛で
ヒエターテ 小村 広江

秋耕や天地返しに御車
芋の秋心豊に野良に在り
新涼や老もさらりと薄化粧
腰伸ばす仕種も老いて菜虫とる
サンパウロ 柳原 貞子

さよならと云えずじまや秋に逝く
兄の忌に好みし野菊活けにけり
行き過ぎし旧知の人や秋日傘
秋の月流れる雲に見え隠れ
サンパウロ 吉崎 貞子

秋立ては秋の音色に電話鳴る
忽然とエイプリルフールのように逝き
この空をささぎる棟建つ秋立つ日
秋空や一世紀生きし人送る
サンパウロ 川井 洋子

一人旅行く先空も秋高し
病む窓に帰る燕を見送りぬ
秋日和手をつなぎ行く供白髪
お供えし柿の静かに赤み増す
サンパウロ 川井 洋子

地図見れば極小なれども吾が祖国心臓部の如役割
重し
真夜中に目覚め厨に水飲めば遠雷とどろき雨降り
来る
『評』回想は全てなつかしい。四、五首それ
ぞれの捉えどころはあるが、五首に写実の良
さがある。真実を定型に嵌め込められた時
その喜びの韻律が伝わるのかも知れない。
サンパウロ 新島 新

アルプスの谷間に散らばる残骸に飛行機事故の凄
じさ見る
事故の因人為人も乗客を道連れにして自殺行と
何がして人生そこまで追詰める狂った常軌逸
したこの行為
乗客の中に同胞も含まれて居たのを知ればなお遣
る瀬なし
物体は落ちる物とは思えどもこんな事件が、世は
狂つてる
『評』乗客を道連れに、全く世は狂つてる。
物質文明はここまで至つてもまだ宇宙をめざ
してはいる。元来(もと)とすをば山の神に捧
げて中らを持ちいでて。(古事記)この精神
に復帰出来なければ自滅の外ない。
サンパウロ 池田 洋子

故郷や尽せぬ思ひ雲霧
風なびくさながら秋の声と聞
亀棲むや鯉も泳ぎて池の秋
書き終えし起承転結秋行
サンパウロ 太田 英夫

神様も手元狂いし秋出水
秋の蚊や吾を無視して娘に止まり
手をすりて南無阿弥陀仏秋の蠅
千澗びる打たれし壁の秋蚊かな
サンパウロ 岩崎るりか

どこまでもついで来る月良夜かな
手巻きずし紫蘇の香高く家族膳
猫背た娘に云われ秋暮し
にぎり鮭のとろさーモンに秋の来る
サンパウロ 大塩 祐二

ふと見れば銀杏もみじの輝ける
郷愁を養国で知る十三夜
紅葉せし名も知らぬ草いとあわれ
遊歩道雑木紅葉のつらなりて
サンパウロ 小林エリーザ

苦勞せしコロニアの生活カフエト売る
燕去ぬ名残り声聞く秋深し
星月夜なるに惜しき星明り
パイネイラ野良のお弁当にきり飯
サンパウロ 佐古田町子

支えらる三児が力老の秋
大雨あり歩道よきよめて秋の街
幼な子にかえる甘えや老うらら
ありがとう五字の深き老の秋
マリヤガ 野々瀬眞理子

チヨコレート貰ふ国際女性の日
青空にぼつかりぼつかり白い雲
夫云ひしアサの婆ちゃんそっくりと
蝶飛ばや雲一つなき青空に
アチハイア 東 抱水

受難日や警備に当たる青年団
受難日や天秤棒に鶏提げて
籠の鳥満満満満小鳥来る
日履等ハイアに帰る四句節
アチハイア 吉田 繁

椰子葉抱く老女がバスに聖枝祭
神の子か純白の小鳥庭に來し
柿熟し小鳥来る村おらが里
我が村に石山在りて小鳥来る
アチハイア 宮原 育子

組合の試験跡や蚯蚓鳴く
農糞く子減りゆく村よ蚯蚓鳴く
聖週の婿が仕込みし鰯料理
日伯に名をなす画伯女性の日
アチハイア 沢近 愛子

善なく余生樂しむ秋の旅
店先に早や柿並ぶ市の朝
色づきし果物目がけ小鳥来る
牧の牛ひねもす食みて秋うらら
アチハイア 池田 洋子

爽やかに草食む馬の親子かな
天高く気持良きそう鳥の声
保健所の列長々と秋の朝
カリーレース染しむ子等に秋の雨
アチハイア 池田 洋子

◎投句送り先=
HIROHIKO KOZUMA
R. dos Jacintos, 372, ap. 51
04049-050 SP - Capital
Tel.: 11-2818-9293

◎投句送り先=
HITOMI HOSHINO
Rua Prof. Ludovina C. Peixoto No. 97
CEP 04139-070, Sao Paulo







